

# 平成24年度事業報告

## 1. 概況

バブルが弾けて以降の停滞する我が国の実情を称して、失われた10年とか20年などと言われ続けていたところに東日本大震災が追い打ちをかけ、さらに根本的な問題解決の糸口さえ見いだせない原発事故の後遺症が国全体に重くのしかかり、明るい展望が見いだせないまま平成24年度も推移すると思われていた昨年12月、衆議院選挙で自民党が圧勝し3年ぶりに政権に返り咲いて以降、それまでの重苦しい空気に明るさが少し見えてきました。しかし、年明けからの円安、株式市場の活況といった明るいニュースは必ずしも私たち中小企業経営者にとっては、まだその手ごたえを感じるまでには至っておりません。まだまだ課題が山積しているこの先、経済や社会の様相がどう変わるか予断を許しません。

このような情勢の中、「公益社団法人」に移行して2年目を迎えた当武蔵野法人会は、引き続き当会の指針である“よき経営者の団体”として、関係当局をはじめ各友誼団体及び近隣法人会との密接な連携を保ちつつ、税の啓蒙活動や電子申告 e-Tax・eL-Tax の推進、研修機会や経営情報の提供等を通じた会員企業の経営支援、並びに地域に対する社会貢献活動にも積極的に取り組みました。

平成24年度の重点施策においては、形だけではなく名実共に公益社団法人としての体裁と中身を整え、地域社会における必要性和存在感を増すべく、我々自身が元気になるような事業を次の3つのキーワードの下、従来のやり方にとらわれず、費用対効果を考えながら皆で知恵を出し合い、汗を流しながら、地域最大の会員組織を持つ当会の総力を挙げて取り組んでいくこととしました。

### 【3つのキーワード】

- 「会員・仲間で楽しく力をあわせて」（連帯）
- 「新たな法人会作りをめざしていく」（挑戦）
- 「そしてその事が地域・社会のためになる」（貢献）

このような方針の下、10月には各支部対抗の「大運動会」を開催し、700余名の会員が一堂に会し、支部対抗戦形式で普段交流のなかった支部会員同士が一つになり結束を高めることができました。この事業には地元警察署や消防署の協力を得て、安心・安全を守るための展示ブースを出展いただき地域貢献にも努めました。さらに、東日本大震災の被災地支援活動の一環として物販協力も行いました。初めての試みでありましたが、結果として大運動会は他の単位会も注目するところとなるほどの大成功を収めることができました。

そして、まだ大運動会の興奮も冷めやらないうちに、夏期経営者講座に代わる事業として「秋期経営者講座」に取り組みました。「税を考える週間」の記念イベントとして武蔵野・三鷹・小金井の三市の

市長によるパネルディスカッション「行政と武蔵野法人会の関わり方について」を開催し、中央線を軸に行政区域が隣接する三市の市長に、当会に期待すること、行政が抱える課題、地域の活性化施策などを自由に語っていただき、行政と法人会との距離が一気に近くなり、地域最大の組織として三市に強烈な存在感をアピールできる場所となりました。

さらに画期的なこととして、暮れの押し迫った時期でしたが「事業承継税制の改正」に関する財務省との「意見交換会」を開催しました。これは、東法連からの協力要請に応じたものでしたが、他の単位会に先駆けて東法連傘下の単位会のトップを切って開催し、実際の改正に当会の意見が反映される結果となり、ここでも当会の存在感をアピールすることができました。

また、本部事業に限らず、支部・部会にあっても従来にない発想で内容の充実した企画が目白押しとなり、一般市民を含め多くの集客を実現し、ここでも地域における法人会の存在感をアピールすることができました。税の啓蒙活動の一環として租税教室で培った実績から、新たな取り組みとして小学生を対象とする「絵葉書コンクール」を実施しました。夏期、冬期の2回に分けて行いましたが、2回で合計309件に及ぶ応募作品があり、優秀以上の作品は武蔵野税務署の正面玄関掲示板に掲示され、多くの来訪者の目を楽しませています。租税教室は20校、1400名を超える小学生、専門学校生を対象に行いましたが、女性部会のみならず青年部会のメンバーも積極的に取り組み、受け入れ小学校、専門学校の先生方からは大変喜ばれました。

最後に、毎年懸案となっていた会員減少の問題に関しては、役員を中心に強い危機感を持って取り組んだ結果、年間新規会員獲得目標250社に対し19社を上回る269社が新たに我々の仲間に加わりました。そして何よりも画期的なことであったのは、12年ぶりに年度末の会員数が年初の会員数を上回るという成果を上げられたことです。東法連傘下の各単位会が軒並み会員数を減らす中で当会は対前年比で会員数が39社も増加しました。事業の活性化はこの会員数の増減に大きく左右されます。その意味で、平成24年度は画期的な年であったと考えています。

平成25年度も、会員の皆様の一層のご理解とご協力を得て、公益社団法人としてふさわしい意義ある諸事業を積極的に推進していきますので、是非ご期待いただきたいと思います。